

■菊池寛 嫉妬をカテに文豪の地位を確立後、〔文芸春秋社〕を開業。〔芥川賞〕〔直木賞〕を創設、その発表は現代も大ニュース。

さくちかん

初の対等条約1888＝ 香川県高松で、代々高松藩儒ながら維新で小学校庶務係となった菊池武脩の三男に生まれる(菊池五山の兄守拙の曾孫にあたる)。母はカツ。

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

日清戦争始・1894＝ 6歳：

貧困のなかに育つも、早熟で、周囲からは神童と呼ばれ、

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

高等小学校の頃から、新聞小説や〔文芸倶楽部〕の小説などを耽読、

日比谷公園・1903＝15歳： 県立高松中学に入学し、

日露戦争終・1905＝17歳： 近くに図書館が開設されるや、通い詰めてあらゆる本を読破、文学への憧れを強めていく。

満鉄発足・・・1906＝18歳： 成績首席となる。〔讃岐学生会〕の懸賞論文で2等。

韓国反日暴動1907＝19歳： 〔日本新聞〕の課題作文「博覧会」が入選し、勸業博覧会などの見物に上京。

アヲホ創刊・1908＝20歳： 高松中学を卒業。上京して、学費免除の東京高等師範に入学するが、サボって上野の国会図書館に通い、

伊藤博文暗殺1909＝21歳： 東京高師を除籍され、明治大学に入学するも直に退学。大橋図書館に通う(本が先生であった)。

韓国併合・・・1910＝22歳： 徴兵猶予のため早稲田大学に籍を置いた後、第一高等学校文科に入学、作家をめざす芥川竜之介、久米正雄らと同級になり親交するが、

明治天皇没・1912＝24歳： 卒業を目前に、盗難事件を起こした友人をかばって退学、

大正政変・・・1913＝25歳： 京都帝国大学選科に入学し直すと、一高の文学仲間から「同人誌を創るので作品を書かないか」の誘いに一念発起、芸を磨くため人妻をだます戯曲「坂田藤十郎の恋」を書き上げるが、その掲載に、芥川が「永井荷風や谷崎潤一郎の糟粕を嘗めているようだ」と猛反対、ボツになってしまう。

第一次大戦始1914＝26歳： 本科に編入、イギリスの近代戯曲を学ぶ。第3次(新思潮)に参加し発表。

21ヶ条要求・1915＝27歳：

民本主義・・・1916＝28歳：

芥川が、自ら中心となって興した第4次(新思潮創刊号)に小説「鼻」を発表、夏目漱石に高く評価され、一躍「時の人」になるのを見て、大きな挫折を味わう。作家では食べていけないと、京大卒業後、時事新報社に入社して、事件や事故などを取材する社会部の新聞記者になり、文学創作からかけ離れた世界で、一般社会がそのまま自分のフィールドになって、それを観察する目が鍛えられていく。仕事の合間に、

ロシア革命・1917＝29歳：

本格政党内閣1918＝30歳：

この年、結婚。家族の複雑な心理を描いた「父帰る」などの戯曲を寄稿するも、鳴かず飛ばずにいるうち、長女が誕生。芥川の配慮で〔中央公論〕から執筆依頼されると、芥川との関係をベースに、売れない作家の嫉妬と葛藤を赤裸々に描いた短編「無名作家の日記」を発表、芥川は自分の素質を優越感にしている性質の悪い男」とまで表現して、センセーショナルな興味を呼び、続いて、家臣への猜疑心に苦しむ大名を描いた「忠直卿行状記」を発表、

ベル仁条約・1919＝31歳：

*さらに、罪を犯した人間の業と救済を描く「恩讐の彼方に」と人間の心理に迫る作品を発表し続け、それまで堅苦しいイメージが強かった近代文学を娯楽ジャンルに広げて、一気に流行作家になった。〔大阪毎日〕から新聞小説を依頼されると、時事新報社を退職し、

大暴落・・・1920＝32歳：

「藤十郎の恋」と「父帰る」も上演され大評判。女性の権利を求める婦人運動の高まりに対応するように、運命に翻弄された主人公辻田瑠璃子が男性を破滅に追いやる「真珠夫人」を発表、女性自らが書いたようにして、全く新しい日本の女性像を提示、彼女らがなおぶつかっている壁を乗り越えさせる痛快さで空前の大ヒット、まさに、記者時代に掴んだ庶民の視線が花開いたのである。

原敬首相暗殺1921＝33歳：

関東大震災・1923＝35歳：

その後、芸術家や文学の価値などの論を発表して、里見弴らと論争。長男誕生。*私財を投じて、自邸に文芸春秋社を創設し社長に就任、〔文芸春秋〕を創刊。創刊号には、「若い人たちには物が云いたくてウツムしている人が多いので、その場を提供すべく小雑誌を出すことにした」と記して三千部印刷、関東大震災が起ると、文芸無力論を唱えて波紋、以後、現代に至るまで、日本の世論形成に大きな影響を与えていくことになる。

護憲三派圧勝1924＝36歳：

さらに、諸作品の発表を続ける。この年、最初の狭心症の発作。売れてこそ原稿料も支払えると、芥川はじめ新進気鋭の作家が並ぶ硬派ななかに、作家の性格や能力などを、独断と偏見で採点した「文壇諸家価値調査表」といった軟派のゴシップ記事を織り交ぜて、大衆が飛びついて来たのはじめ、

治安維持法・1925＝37歳：

円本時代始・1926＝38歳：

次女誕生。小説家協会と劇作家協会を合併して文芸家協会を設立。〔演劇新潮〕を再刊。〔映画時代〕を創刊。『六分の慰楽、四分の学芸』という編集方針の総合誌へとリニューアル、今では普通になっている、様々なテーマにもとづき誌上座談会を企画すると、その融通無碍な面白さが受け、あるいは、地方講演部次を設けて、作家たちを各地に派遣、読者のターゲットを広げるなど、次々と斬新なアイデアを打ち出し、

金融恐慌・・・1927＝39歳：

〔小学生全集〕を編集。『わずか5年足らずで18万部を発行する日本を代表する雑誌になったこの年、かつて嫉妬の対象であった盟友芥川が自殺するという計報、

共産党事件・1928＝40歳：

世界恐慌・・・1929＝41歳：

海軍軍縮条約1930＝42歳：

満州事変・・・1931＝43歳：

国際連盟脱退1933＝45歳：

帝人疑獄事件1934＝46歳：

芥川直木賞始1935＝47歳：

やはり作家仲間だった大衆小説で人気の直木三十五が死去すると、〔文芸春秋〕で「追悼号」を出し、*芥川と直木を記念するとともに、無名もしくは無名に近い新進作家を世に出すべく、「芥川賞」「直木賞」を創設するのである。受賞者には、創作に専念できるよう、文学界では異例の、小学校教員初任給1年分にあたる500円の賞金を出した。

二二六事件・1936＝48歳：

日中戦争始・1937＝49歳：

健保+総動員1938＝50歳：

第二次大戦始1939＝51歳：

大政翼賛会・1940＝52歳：

日米開戦・・・1941＝53歳：

・・・1942＝54歳：

創価学会検挙1943＝55歳：

年金+総武装1944＝56歳：

敗戦・・・1945＝57歳：

新憲法公布・1946＝58歳：

新憲法施行・1947＝59歳：

極東裁判決・1948＝60歳：

『日本文学報国会創立総会議長。大東亜文学者大会議長と戦意高揚に努めるも、大映株式会社社長を兼任。日本文学振興会が「戦記文学賞」を設ける。長男、次女それぞれ結婚。〔文芸春秋〕が休刊となって、敗戦を迎え、大映社長を辞任。文芸春秋社は解散に至る。文芸春秋新社の創立に協力、〔文芸春秋〕が復刊するも、公職追放処分となり、狭心症のため、急逝した。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科。NHK番組(先人たちの底力 知恵泉)の「菊池寛 芥川賞・直木賞を作った文豪社長」により大幅追補、